

国際交流事業

活動の概要

岡山市南区の社会福祉法人に勤務する外国人介護士の日本語能力向上と地域交流を目的として、2023年4月より地域交流会を開始した。この活動は、外国人介護士達の日本語教師からの「様々な人々が話す日本語を聞くことが重要」という提案や、外国人介護士受け入れ担当者からの「外国人介護士は地域とほとんど関わっていない」という声を受けたことをきっかけに、職場以外での交流の場を作ることや同世代の日本人との交流を目指し、同法人の系列団体である橋本財団を中心に、岡山県内の大学（岡山大学、ノートルダム清心女子大学、就実大学など）のメンバーからなる国際交流サークルの協力を得てスタートした。2023年3月には、外国人介護士からの要望の聞き取りを行い、その中で「同世代の日本人との交流」「日本語を使う機会」「文化を学び合う活動」が求められていることが分かり、これらのニーズに応える形で月1回の国際交流活動が進められている。

2024年度活動報告

2023年4月より、月に1度のペースで定期的に外国人介護士との交流会を行っている。

以下は、2年目となる2024年度の活動記録である。

日時	参加者/合計数	活動内容/場所
2024/4/20	12名+スタッフ4名 合計16名	スポーツ大会（卓球、バレーボール、バドミントン、野球）/橋本財団、下石井公園 大学生、大学生の家にホームステイしていた外国人、公園に遊びに来ていた子どもも含めて交流を行う。
2024/5/19	26名+スタッフ5名 合計31名	インドネシア料理を作ろう/国際交流センター サテ、ナシゴレン、野菜スープとデザート（果物のスープ）を作る。インドネシア語を勉強している方が参加。
2024/06/22	19名（うち子ども2人）+スタッフ4名 合計23名	ミャンマー料理を作ろう/暮らしの保健室（K'sカフェ） モヒンガー、ミャンマーのピザ、ファルーダを作る。地域のジム等に広報を行ったため地域の方の参加があった。赤穂のあたりから来てくれたミャンマーの方もいた。
2024/07/19	24名+スタッフ4名 合計28名	BBQと手持ち花火/旭川河川敷 BBQ、手持ち花火や打ち上げ花火を楽しむ。手持ち花火が初めての経験となった方もいた。
2024/09/20	1名+スタッフ4名 合計5名	備前焼体験（お皿を作成）をした後、岡山城を見学/備前焼工房、岡山城
2024/10/20	10名+スタッフ4名 合計14名	ベトナム料理を作ろう/国際交流センター バインセオ、にらのスープ、魚の揚げ団子、チャーを作る。当日の飛び入り参加あり。
2024/11/27	6名+スタッフ3名 合計9名	尾道への小旅行 ロープウエーに乗り、尾道の千光寺を見学、猫の小道などを散策

2024/12/21	先着10名	ワールドキッチンにて多国籍料理を食べる会とフットサル/おかやまドーム 財団のブースに来てくれた人にお菓子をプレゼント。
2025/01/25	17名+スタッフ3名 合計21名	インドネシアのスイーツを作って食べる会/北長瀬ハッシュタグ マルタバマニス、ビスチョコック、おあげの中に野菜をつめて焼いたものを作る 講師が教えているインドネシア語クラスのメンバーが参加。
2025/02/27	2名+スタッフ2名 合計4名	今年度の交流会に参加してくれた人たちを招いて、活動の振り返り/コワーキングスペース 料理講師が参加。来年の予定や反省点などを話し合う。

全般的に2024度は参加者が少なかったが、地域でベトナム料理店を営んでいる方や、インドネシア語を教えている方から、ベトナム料理を作りたい、インドネシアのスイーツを作りたい、とそれぞれ要望があり、外国人が発起人となる様子が見られた。これまでは外国人支援のNPOのイベントと一緒に参加したり、財団が主導で交流会を行ってきたが、2年目を迎え、少しずつ当事者が主体となる様子が見られている。

2. 参加者の声（外国人介護士へのヒアリング内容報告）

2025年2月17日から21日にかけて、外国人介護士30名ほどの協力を得て、交流会や日常生活に関する聞き取り調査を行った。以下がヒアリング内容と抽出テーマである。

質問事項	抽出テーマ
岡山/日本に来た理由	気候が良い・災害がない / 物価が安い / 日本の文化を学びたい / 人が少ない / 面接に合格 / 住みやすい / 親族が岡山在住 / お金 / 組合の紹介/
今の仕事について	大変なこと：仕事が多くて大変 / 岡山弁の理解 / カンファレンスでの記録（聞けるけど、メモが苦手） / 認知症ケアが大変 / 申し送り/ よかったこと：先輩が優しく教えてくれる（厳しい人もいるが、全体的に良い） / 分からないことを聞きやすい / 施設の食事がおいしくて安い / 利用者との会話が楽しい /
コミュニティについて	Facebookでのつながりはあるが、直接会うことはない。LINE、フィリピンのコミュニティがあるがあまり関わっていない。
地域の人との関わりについて	全然ない / 近所の人に挨拶する程度/ 東畦の寮や邑久では野菜や魚をもらったこともある
交流会について（参加が難しい理由）	日程があわない / 忙しい / 交流会の存在を知らない / ラインを開いていないと通知に気づかない / 希望休提出に間に合わない
今後の交流会について	食事会 / 日本の文化体験 / スポーツ/ 旅行 / 花火 / BBQ / 花見/ カラオケ/ 多国籍の料理を作る
岡山/日本への定住について	定住意思あり（特に岡山）。岡山市は便利（銀行、郵便局、スーパーあり） 邑久・日生はちょっと田舎と感ずることも。

同出身国のコミュニティがあっても、facebookなどのオンラインが主要で、実際に会う事が少ない事が頻繁に報告された。また、日本語を話す機会は全員があり、職場でも先輩が積極的に話しかけてくれる。また、全般的に先輩方は優しく、困った時はすぐに相談できる環境があることがうかがえ

た。地域住民との関わりについては、寮生活者からは、野菜や魚をもらったりなど、住民との交流の機会の話が報告された。しかし、独り暮らし者は近所との交流はなく、挨拶しても返事がかえってこないという経験をしている人もいた。

今年度は交流会の参加者が少なく、その理由を聞いたところ、交流会の存在を知らなかったり、LINEを使用していない、使用していても開かないと通知に気づかない、日程通知が遅く希望休提出に間に合わないので早めの通知がほしいとの希望が聞かれた。インタビューに応じてくれた全員が交流会の継続を希望しており、希望する活動としては食事会（特にBBQは人気）や多国籍料理を作る、旅行やスポーツ、ゲーム、日本の文化を知る機会などを挙げていた。今年は外国人介護士達は最寄りの地域公民館から声をかけられて地域の防災イベントに参加したり、所属法人でも朝市に行くなどのイベントを行ったり、スポーツサークルにも参加するなど、外国人介護士が参加可能な交流イベントが職場や地域で増加してきており、他団体が主催の交流機会が増えたことも当国際交流に参加出来なかった要因であることも考えられる。

3. 参加者の声（アンケートより）

交流会終了毎に寄せられた参加者からのアンケートの結果を要約する。交流イベントでは、多国籍な人々との出会いや異文化理解、料理体験やアクティビティを通じて楽しい交流ができた点が好評である一方、参加者数や会場の制約があり希望する交流会に参加できないこと、文化理解の深まりなどに課題があることがわかった。今後は、食やスポーツ、文化体験を通じた多様な人との交流を希望する声が多く、規模や頻度にも工夫が必要である。

